



三木高大 自治会新聞

令和 4 年 3 月号 (No. 175)

発行 三木市高齢者大学学生自治会
発行責任者 自治会会長 米村 隆
編集者 自治会新聞編集委員会
発行日 2022年(令和4)3月8日

<http://koureisyadaigaku.cccp.jp>

高大の思い出

【1年生】平成30年3月22日に高大の入学オリエンテーションがあり、新1年生が初めて顔を合わす。37名の入学で年齢は62~84歳平均年齢は70.6歳。役員が決まるまでの教室は話し声も無く静かで、初めて聞く高齢者大学の校歌のテープが流れていたのが記憶にある。入学するなり、学年愛称をワンダフル30と決め、入学後初めての行事グラウンド・ゴルフ(以下「G・G」と称する)大会が5月18日にあり、成績は最下位だった。10月5日には、体育祭がありこれも最下位で反省しきりの1年だった。そんな中、来年のG・G大会に向け9月より、G・G同好会を発足し、毎月練習をすることとなった。

【2年生】5月17日にG・G大会があり、練習の成果を発揮して優勝の予定が、惜しくも2位と1点差の3位だった。10月4日には体育祭があり、昼までの競技では順調に得点を重ね2年生が1位で後半戦に臨んだ、昼からは成績が伸びず3年生に1点差まで追い上げられ、最後の種目の玉入れとなった。結果はなんと1年・2年・3年・4年共に同数の16個で2年生の優勝となった。その日の優勝祝賀会のビールがおいしかったことは今でもよみがえる。



【3年生】4月に入ってコロナ禍による学校閉鎖が5月31日まであり、6月16日の登校日に久しぶりに顔を合わす。3年生は各行事の実行委員長になるので大変だった。私もG・G大会の実行委員長となっていたので、2月頃より実行委員会を数回開き、準備をしていたが緊急事態宣言で中止になってしまった。体育祭も同様で、実行委員会を数回開催していたが中止になった。2月の大学祭も同様で中止となり、コロナに振り回された3年生だった。

【4年生】昨年同様、緊急事態宣言による休校が続く。5月のG・G大会も中止、10月の体育祭も中止となった。しかしG・G大会は11月5日に防災公園で開催できた。練習の成果を発揮し優勝を目指したが、3年生に完敗し、準優勝だった。中止になった体育祭も10月21日、思い出づくりに4年生だけの33名全員が参加してミニ体育祭を開催し楽しんだ。



私にとって、遠い昔が蘇ったような不思議な4年間でした。卒業後も年に数回は会って、生涯付き合いたいと思います。

井上学長はじめ、事務局の皆様本当にありがとうございました。

4年1班 細見 明夫

卒業生に贈る言葉

あなたと出逢えた奇跡に感謝



4年生の皆さんご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。「光陰矢の如し」月日の経つのは早いものですね。卒業文集を読み返してみますと、誰もが高大に入学してよかったと書かれています。近所付き合いだけでは、こんなに多数の人々との出会いはなかったでしょう。大学の4年間の授業や学校行事、クラブ活動を通して出会いが生まれ良き仲間や友達ができ、行動範囲が広まったことでしょう。卒業論文を書くことにより自分史を振り返ることであります。この冊子は一生後世にも残っていますので、お孫さんにも読まれることでしょう。今年の卒業文集も楽しみにしています。

さて、私が卒業生との学校行事で一番印象に残っている2つのことは、体育祭での玉入れで4学年とも同数であったこと、この年は今の4年生が優勝でした。もう一つは昨年のスポーツデー(グラウンド・ゴルフ大会)の前評判では団結力、練習量で4年生が特出していましたが、結果は3年生に僅かの差で敗れました。4年生は今でも悔しく頭に残っていることでしょう。

しかし、これからも次の目標に向かって邁進して下さい。
それでは健康に気を付けられて、いつまでもお元気でお過ごしください さようなら
3年1班 杉本 一朗

専門講座(郷土史)

-大河と郷土史-

三木の歴史といえば、三木城攻防戦。NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」、「麒麟が来る」などで概要は知っているつもりだった。羽柴秀吉に攻められ、三木城に籠城した別所長治が兵糧攻めを受け、最後は自身の犠牲によって城兵や地域の住人を守ったという話である。

講座では、残された武将の書簡や戦記録から、秀吉側、別所側双方の動きについて時系列に沿った詳細な解説がある。また、三木周辺に多く残る土塁や付城跡などの遺跡の分布図や城郭の絵図など興味深い調査資料が示される。これらを見ながら解説を聞いていると、秀吉の周到な包囲網の全容と、有名武将の動きなどが大河ドラマのワンシーンを見ているように頭の中に浮かんでくる。

織田と毛利の覇権争いの渦中、別所に味方する勢力は滅ぼされ、播磨の国々の中心的存在であった三木城(別所長治)も秀吉の手に落ちた。しかも、実は長治の自害による城兵の命乞いも秀吉には無視され、残された兵士たちはことごとく殺害された、との見解もある。「三木の干し殺し」と言われる凄惨な殺戮が行われたこの地の歴史を平和な世に生まれた私は申し訳なくも淡々と学習している。さて、今年の大河は「鎌倉殿の13人」。三草山の戦いで敗れた平氏が福原に敗走、後を追った源氏の軍勢が一の谷に向かう際に周辺を通っているはず。秀吉の播州攻めから遡ること約400年、今後郷土史の講座もこのあたりを取り上げてくれないかと思う今日この頃である。

1年2班 積山 喜規

大学祭の報告

感謝！感謝！の大学祭

まず、大学祭の開催にあたり皆さま方に感謝、お礼を申し上げます。今年度は第30回と節目の年でもあります。

近年、学生数が大幅に減少し続ける中で、“新たなかたちの大学祭”を目指し、感染症対策を念頭に置き、昨年10月5日より実行委員会を立ち上げ企画・立案してきました。

工夫した点は

- ① 生徒の皆さんが出来るだけ参加、舞台の観覧ができるよう例年人員を多く必要としていた喫茶の廃止
- ② 展示用パネル板の軽量化による搬入。搬出時の負担軽減と安全性の向上
- ③ 音響装置の操作を業者から学生へ移行し、財源の確保
- ④ クラブ活動の展示を今年は3クラブが舞台発表にチャレンジ。活動内容の明確化、クラブ活動の活性化により新規加入者を期待
- ⑤ 演技発表時の司会を総合司会から各クラブ独自に移行。
司会者の負担軽減、各クラブ内の意識・充実感の向上
- ⑥ 弁当の見直し。試食時にメニュー、値引き等を要望
業者さんに要望を受け入れていただき満足度アップにつながった。

- ⑦ コロナ対策班を設置。参加者全員へチェックシートを配布

体温・問診の記入。換気等で三蜜の回避。手洗い・消毒等を実施した。

経験できなかった活気ある全員参加型の大学祭となり充実感を味わうことができました。これは皆さまのご協力で成り立った大学祭でありました。

最後になりましたが、学校関係者、自治会をはじめ、学生、大学院生、学友会、卒業生の皆さん、本当にありがとうございますの言葉に尽きます。



大学祭実行委員長 池田 義昭

2020年4月入学当初の頃より、新型コロナウイルス感染拡大により、この瑞穂の里高齢者大学もクラスメートとの会話も殆どなく昼食も黙食で終わる日が多く、講座と連絡事項のみでした。第一波コロナ感染拡大により6月～休校となり、2学期も第2、第3波の感染拡大の為に、全ての大学行事も中止となりましたが少し落ち着いた11月、1年生の研修旅行で灘の酒蔵に行くことができました。

2021年2年生になりコロナ第4、第5波の感染拡大が続きました。しかし11月、何とか落ち着いた頃2年生の日帰りバス旅行で出石に行くことができ、出石蕎麦を堪能できました。

ようやくクラスの会話も増え始め、コーヒータイムも始まりました。クラスの連絡網も、ラインによる一斉メールになり、連絡や動画配信等多く掲載されクラスの仲間意識も出来たようです。

11月末、晴天の防災公園で、学年対抗グラウンド・ゴルフ大会が開催され惜しくも3位でした。クラス意識も高まり笑いと会話が弾み楽しい半日でした。現在3年生の先輩方と、防災公園で、来年度の試合目指しグラウンド・ゴルフの練習を楽しんでいます。また、それぞれのクラブ活動に皆さん参加され大学祭も盛大に行われました。人生100年時代楽しく学び、活動の輪が広がり感謝です。第6波オミクロンに負けないように更に免疫力をアップしましょう。

2年2班 綿谷 栄子

ひろば

「終活と断捨離について」

皆さん、もう終活していますか。私はまだ元気だからやっていませんが、70歳後半、年齢から言えばもう遅い位だそうです。準備するものは、①資産整理②エンディングノート③お墓葬儀の準備④今後のライフプラン等だそうです。後期高齢者を過ぎた頃、親戚・友人らが亡くなる通知を聞いてから、今は大丈夫だと思っているが、認知症を患うなど、意思表示が出来なくなると難しくなる、そのため元気うちに終活を開始しなくては、いつか必ず訪ずれる自らの死と向き合い、自分らしくどのように最期を迎えたいかを考える時期だと思った。残りの人生をいかに楽しく送るかの準備をしたい。終活しないと結局死後家族に迷惑をかける事は充分わかっているが、今すぐというわけでもないと思っしまい、まだその気にならない。

終活に関連して断捨離を進めたいが私は何でも執着して残すタイプである。断捨離に関する本を読み、テレビを見たりしているが断捨離は一向に進まない。断捨離することによって身の回りの管理が行き届き時間と心に余裕が持てるようになる事は分るが自分の机の上は書類の山、いつでも処分出来ると思うと残してしまう悪い癖、これから断捨離頑張ろうと思うが……………。

私の好きな言葉「二十歳であろうが八十歳だろうと学ぶことをやめた者は老人である。学び続ける者はいつまでも若い。 ヘンリー・フォード

4年2班 岸田 雅治